

よい山作りをめざして わが造林班のとりくみ

小坂宮林署 倉田智好

最近は署長にしても、課長にしても、口を開けば改善計画云々とおっしゃいますが、国有林の財政事情の厳しいこと、大変なことはわかります。しかし、実際にどのようにしたらよいかである。

それは作業技術にあらわす私達の腕にかかっていると言うことで、毎日の仕事にとりくむ姿勢が重要である。

そうしたなかで私達の担当している小黒川国有林での作業方法が本当によいか、昨今の局研修や各署の見学が相ついでいるところだが、それも比較してのことであり、私達が取り組んできたことについて一度みんなでもふり返って、更に合理的作業方法に向けて努力するためここに報告する。

小黒川国有林は面積約1,900 ha、海拔700～1,600 mに位置し、明治26年～大正7年までに連続植栽されたヒノキの一大団地であり、その成績も大変よいところである。

現在20年生未満の林分が約500 haあり全体の約 $\frac{1}{3}$ が伐採して植付し立派に育っている。

現在は分散伐採で毎年約40haの新植と保育をしている。

植付けは言うまでもなく、完全活着を目標に実行しているが、主体はヒノキであり特に適期に注意している。

4月上旬～5月上旬に植えた苗と、5月中下旬植えた苗とでは、その年からの成長に大きな差がある。植付苗は、健苗で大きな苗を署に申請しているところである。

下刈は6月中旬～8月下旬まで実行しているが、私達にとって一番強度な作業であり、疲労も激しいけれど、こうしたきつい作業は「みんなでやろう」と申し合せ頑張っている。もし、休まなければならぬ様な人でも気がねして休むという雰囲気であって、病休はもとより、体の悪かった人でも、調子が良くなるように心がけている。これは一人一人が自覚し、自からの健康に注意しているあらわれである。

図-1は、私傷病で休んだ日をグラフにしたものであるが、私達の現場は少ないことがはっきりしている。

同じ下刈箇所でも手刈で能率が上がる場所もあり、適正な人員配置を考えて実行している。

地拵作業の基本的な考え方は、ムリ・ムダ・ムラな作業はしないということである。これは今に始まったことではなく、ずっと以前からなされた事であり、過去には他署等からも批判されたこともあったが、現在は自信をもって実行しているところである。

雨天での作業は雨合羽で動きも鈍くなりがちであり、安全には特に気を付けている。

今まで行って来た実行上の留意点を具体的に上げると下記のとおりである。

地 拵 作 業 実 行 上 の 留 意 点

I 基本的な考え方

無理、無駄、無益な作業はしない。

II 具体的な実行上の留意点

1. 植付本数に応じた地ごしらえをする。
2. 現地に適した作業方法を取り、画一的な方法をとらない。
3. 保育作業等に悪影響のない地ごしらえをする。
4. 枝条、切出木等の異状集積地はあえて手を加えない。
5. 留杭は使用しない。
6. 筋間隔にこだわらない。
7. 礫地帯等植付不可能地には手を加えない。
8. 直営生産事業その他事業等との連携により、小径広葉樹も搬出利用するよう指導する。
9. 見場の良きにとらわれない。
10. 作業班長の記番毎の目標功程を算出し、班長の功程管理をしやすくする。
11. 下層植生の種類、状態によって、時期にとらわれず実行している。
12. 不安全作業にならない作業方法で実行する。

以上12項目あげたが、現在のところ特に問題もなく自信をもって実行している。

今年も造林研修（局研修）で私達の現場における作業方法が検討された。

ここでは作業の進め方で意見がわかれ、上方から進めていくか、下方から進めるかが議論となったが、自ら体験するなかで上からやる私達の従来から実行してきた方法が、能率のよい安全な作業方法であることが認められた。

よい山作りをめざした小黒川担当区の造林事業の功程は下表のとおりである。

功 程 調 べ
地 拵 (人/ha) 小黒川担当区

年度	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5
小 黒 川 (担) ha ()	7.4 ha (27.00)	7.9 ha (34.26)	7.6 ha (34.62)	7.3 ha (32.52)	8.8 ha (30.69)
署 平 均	11.4	9.8	11.4	10.4	9.8
局 平 均	15.0	15.2	14.3	14.0	—

下 列 (人/ha)

年度	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5
小 黒 川 (担) ha ()	3. 3 ha (176.84)	3. 7 ha (175.41)	3. 4 ha (173.06)	3. 1 ha (186.14)	3. 2 ha (188.64)
署 平 均	3. 2	3. 2	3. 1	3. 1	3. 0
局 平 均	3. 6	3. 7	3. 8	3. 8	—

最近是他事業との連携作業が指示されているが、ここでも生産事業との協力がなされ、小径木などが搬出されなかったものについては、チェーンソーで短かく切断されている。

自動玉ソー盤台跡には打出し木が山のように残されているが、今年から地元椎茸業者などに、燃料として売払いされている。ほっておけば邪魔物扱いされるものが、有利に利用されている。

打出し木は、トラッククレーンで積み込み搬出されていたが、今年の冬山事業からはコンテナによって、即売され跡地処理に大変たすかる。

私たちが汗水流して育てたヒノキもカモシカに食べられ、これを見るにつけ痛いたしい気持ちで一ぱいである。

今年は何の対策も一歩進んだようだが、育てる私達の労働意欲が低下しないためにも、更に強力な対策を切望するものである。

ネズミの害も、53年から発生し大きな被害を受けた。今年は何鼠剤の手まきとヘリ散とで駆除している。

小さなかわいらしい動物であるが、時期を問わず、すっかりヒノキの皮をかじっている。今後はこのような被害を受けないためにも常に注意していなければと思っている。

海拔 1,300～1,500 m 附近になるとササに悩まされている。

基準より多い回数の下刈をしているが、ササの生長がよいので、現在フレノック散布を積極的に進めている。

今年度も人力散布で、横筋の散布道を、間隔 5～8 m 刈払い実行したが、出来ることならやはりヘリコプターによる散布がよいと思っている。

事業実行において、安全作業が第一であり健康が大切である。

私達も健康管理には特に気を付けている。

署と現場と一体となった安全指導もなされ49年より現在まで、無災害 186,000 時間を継続しているところである。

仕事量も年々増え、私達10名では実行がむつかしく、他の担当区より延 600 人程の応援を受けている。

以上、わが班の取り組みについて、報告したが、私達は、ある程度班にまかされていることによって仕事への意欲がわき、時間がきたからといって、やりかけた仕事はすぐ止めるのではなく、次の仕事の段取りを考え少し時間がかかってもキリをつけるようにしている。

そうした、みんなの意気込みによって私達は、改善計画などと言う以前の心がまえとして今までやってきたものであり、その成果は、いずれ山になって、私たちは大いに胸を張ることができるわけである。

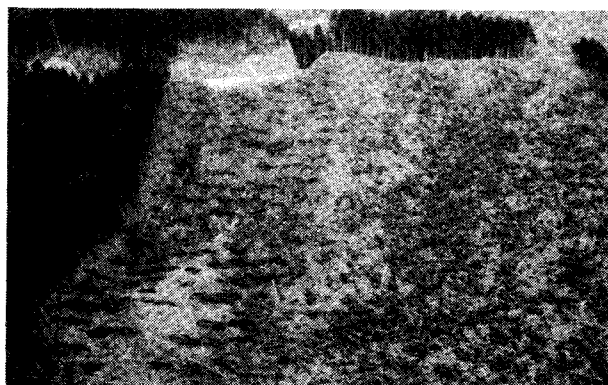
分散伐区における新植状況

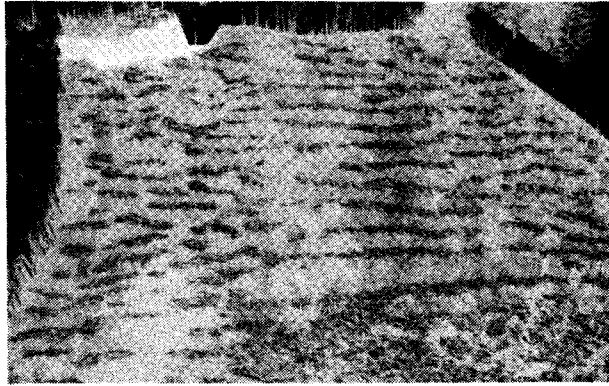


造林研修で現地討論する

各署の職員

直営生産（夏山）実行跡地





連携作業による地搾地

図-1



カモシカに食害されたヒノキ

